

宮崎汎会員が見た世界の旅第1部映画編第14話

女優ソフィア・ローレンの魔力 イタリア

飯山は信州の北のはずれにある小さな城下町である。藤村の破戒の舞台であり千曲川のスケッチにも登場する。1950年代から60年代にかけては大層賑わった町であるが、その後次第に過疎化が進み御多分に漏れず寂れた町となってしまった。1950年代、町に勢いのあった時代には映画館が2つあり、パチンコ屋も何軒かあった。映画館は大音響で映画の宣伝や主題歌を流していた。

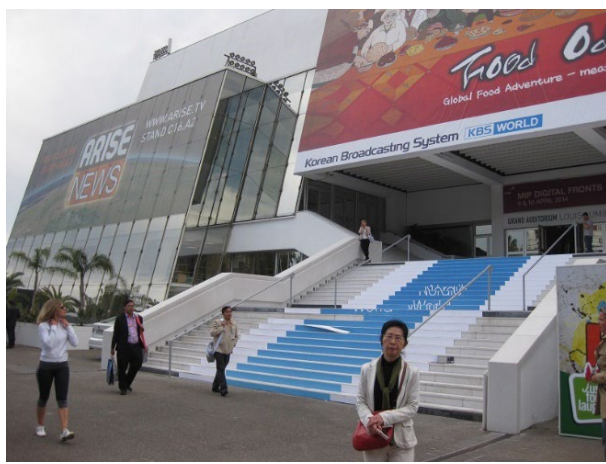


今なら騒音防止条例に引っかかるところであろう。ある時ちょっとハスキーでテンポのいい曲が流れ口ずさんだのが、“マンボ・バカン”であった。曲の響きにひかれ見に行った映画が、ソフィア・ローレン主演の「河の女」である。以来その魔力のとりことなった。当時は娯楽といえば映画で、二本立て、時には三本立てが安くみられ、ソフィア・ローレン見たさに同じ映画を何度も見にいったものである。

彼女の出演した映画で強く印象に残っているのは「河の女」、「昨日今日明日」、「ひまわり」である。ひまわりの真っ黄色な色彩が画面いっぱいに広がるあの光景が瞼に焼き付き、後年スペインのアンダルシア地方の地平線のかなたまで黄色一色に染まるひまわり畑を見に行き、映画のシーンとダブらせ感動したもので

ソフィア・ローレンのプロマイド ある。

海外旅行の行き先の選択は、映画や音楽に強く印象付けられ、それが引き金となっていつか行ってみたいと思うことが多い。ソフィア・ローレンに引き付けられイタリアを知り、いつの間にかイタリア大好き人間となり、とうとう遂にはローマ市内にアパートを借りて、くまなくあるきまわった。



1967年モンローとローレン カンヌのローレンの手形

カンヌ国際映画祭会場

海外出張の折ローマで、日本生産性本部のイタリア駐在員である千藤敦さんに何げなくソフィア・ローレンのファンだと告げた。すると千藤さんは、ソフィア・ローレンは私のダンス友達だが、紹介しましょうかと夢のような申し出をしてくれた。だが4日間のローマ滞在ではとても無理なので諦めた。千藤さんはローマ放送局のアナウンサーを務め日本から皇族方がイタリアへ行くと通訳として随行するなどローマではちょっとした有名人であった。

ソフィア・ローレンはローマで生まれたが幼少期はナポリ近郷のポッツオーリで過ごした。

1950年初頭映画界に入り、1950年代後半には国際的なスターダムに上り詰め、ヨーロッパや映画のメッカハリウッドで多くの作品に出演する。特にイタリアの名優マストロヤンニと共演した「ひまわり」や「昨日今日明日」は世界的なヒット作となった。ベネツィア国際映画賞、ゴール



デングロブ賞、カンヌ国際映画女優賞、アカデミー賞など数多くの賞を受賞している。

スペイン・アンダルシア地方 地平線まで続くひまわり畑



ハリウッドのグロウマンズ・チャイニーズ・シアターの入口には有名スターの足型や手形やサインが並んでいる。フランスコートダジュールのカンヌ国際映画祭の会場前にも有名スターの手形やサインが敷き石に記されている。ソフィア・ローレンはいずれにも記されていた。世界的な大女優の証なのだろう。日本にも何度かやってきた。ホンダのバイクの商業にも出演している。

ローマにアパートを借りて住んだのも、きっとソフィア・ローレンの魔力が呼び寄せたのかもしれない。ローマの終着駅テルミニの前に広がる共和国広場の一角に、古本屋の屋台が連なっているところがある。時々覗いた。昔の映画のブロマイドなどを並べた店に立ち寄った。そこに懐かしのソフィア・ローレンのブロマイドを見つけ1€で買った。生れて始めて買ったブロマイドであった。(2016年)

ハリウッドのグロウマンズ・
チャイニーズ・シアター